

第2学年3組 学級活動（2）指導案

平成28年1月15日（金）第5校時

指導者 T1 養護教諭 松橋 喜代子

T2 教諭 藤 光 隆

男子15名 女子10名 計25名

1 題材 たいせつないのち

学級活動（2） カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、明るく活発であり、体を動かすことがとても好きである。生活の中では、多くの児童が、友達を思いやる発言や行動を心掛けているが、友達の行動を注意するときには厳しい口調になってしまうことがある。体育のドッジボールでも自分が投げたい一心でボールを奪い合ってしまう場面が見られる。その一方で、練習の中で全員にボールが回るように渡したり、盛り上げるために肩を組んで掛け声をしたりする場面も見られる。こうした、友達と協力し合い、相手の気持ちを考えて活動できるよさをさらに高めるために、各教科等でも、意図的にグループでの活動を取り入れている。

さらに、帰りの会で友達のよいところを発表する「キラキラハート賞」や、クラスの仲を深める集会活動の取組を通して、児童は思いやりの気持ちがもてるようになってきている。引き続き、友達とのトラブルが起きても、いやなことを言ったり、暴力をふるったりすることがないように思いやりの気持ちを伸ばす指導をしていきたい。

（2）題材設定の理由

性に関する指導を各教科や総合的な学習の時間などに関連付けながら、計画的、継続的に指導を実施していくことは、「生きる力」の基盤をつくる上で非常に重要であると考え。特にこの時期においては、自己肯定感を高めるとともに自他の生命を大切にしようとする気持ちを育てることが大切であるにとらえている。

2年生では、生活科で生き物を飼育する活動を通して、生き物は生命をもっていることや成長をしていることに気付き、大切に育てることができるようにしている。また、「あしたへジャンプ」の学習を通して、自分自身の成長や生活の様子を振り返り、自分の誕生や成長への興味・関心が高まっている。こうした教科との関連を図ることで、命の大切さについて考える学習がより豊かに効果的に進められるものとする。

本時では、自分たちが母親の胎内で、へその緒を通して栄養や酸素の供給を受けながら、家族や周囲の人の愛情によって大切に育てられてきたこと、自分が生まれた時の家族や周囲の人々の喜びや思いに気付かせることで、自分自身を大切にすることはもとより、自分と同じように生まれ、家族や周囲の人に愛されている友達も大切にしようとする気持ちを養い、相手を思いやる具体的な行動がとれるようにすることをねらいとして、本題材を設定した。

3 養護教諭が指導する効果について

- 児童の健康に関する実態や生活行動を踏まえた指導ができる。
- 最新の保健情報や知識等、専門性を生かした指導ができる。
- 健康問題に対して実践的な方法を提示でき、関心・意欲を高めることができる。
- 自己の健康問題等について相談するきっかけとなり、個別の指導につなげることができる。

4 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

5 事前の指導

- 「たいせつないのち」の学習について家庭に知らせ、児童が母親の胎内にいた時の様子や生まれた時の両親、家族の気持ちなどを手紙に書いてもらうよう保護者に依頼する。
- 生活科「あしたへジャンプ」の学習において、自分の誕生や成長の記録、出産時の様子についてカードにまとめ、家族の思いに気付くことができるようにする。
- 道徳の時間において、生命の尊さに関する授業を実施する。

6 本時のねらい

生命の大切さに気付き、自分と同じように大切にされてきた友達とさらに仲よくする方法を考え、実践できるようにする。

7 本時の展開

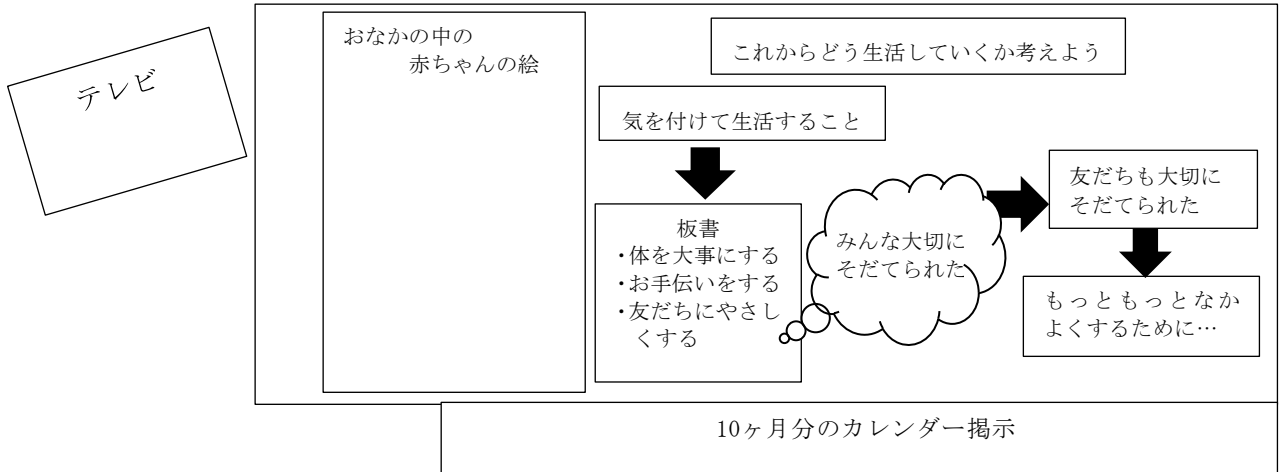
段階	学習活動	○指導上の留意点(T1:担任 T2:養護教諭) ☆目指す児童の姿と評価規準	資料
導入 5分 * つ か む	1 赤ちゃんの頃の写真を見て自分の乳児期があったことに気付く。	T2: 赤ちゃんの写真を提示し、クイズ形式で自由に意見を発表させながら、楽しい雰囲気の中で本時の学習への関心を高める。自分にも赤ちゃんの時期があったことを想起させ、赤ちゃんは、どのように育つのか考えさせる。	赤ちゃんの写真
展開 30分	2 自分たちは、おなかの中でどのように育ったかについて話を聞く。	T1: 掲示資料「お母さんのおなかの中の赤ちゃんの絵」を使い、説明する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの体には、赤ちゃんを育てるための働きが備わっている。 ・お母さんのおなかの中で、約10ヶ月位かけて大きくなる。 </div>	おなかの中の赤ちゃんの絵

* さぐる	<p>3 家族からの手紙を読み、おなか中で赤ちゃんが育っていた時の家族の気持ちを話し合う。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんと一本の管（へその緒）でつながっている。 ・その管を通じて「栄養」や「空気」、「病気とたたかう力」をもらっている。 ・おなか中の新しい命は、家族や周りの人をうれしい気持ち、幸せな気持ちにしている。（命の共有） </div> <p>T 1：事前に書いてもらった手紙を読ませ、家族の気持ちに気付かせる。</p>	10ヶ月分のカレンダー
* 見付ける	<p>4 これからどう生活していけばよいか考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これからどう生活していくか考えよう！</p> </div> <p>T 1：大切に育てられた自分たちは、これからどんなことに気を付けて生活していけばよいか考え、発表させる。</p> <p>T 2：児童が、発表したことを全体で共有できるように板書する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-right: 10px;">・体を大事にする <li style="margin-right: 10px;">・お母さんのお手伝いをする <li style="margin-right: 10px;">・けがをしない ・友達に優しくする 等 </div> <p>T 1：話し合いを通して自分自身を大切にするとともに、友達も自分と同じように家族に大切に育てられたことに気付かせる。さらに、このことを踏まえ、友達の体や心を傷付けないように、仲よく過ごすことが大切であることを考えさせる。</p> <p>T 1：友達とさらに仲よくしていくためには、どんなことに気を付けたらよいか、どうすればよいか具体的に考えさせる。</p>	
<p>終末10分</p> <p>* 決める</p>	<p>5 これから友達とどのように接していくか決める。 <自己決定></p> <p>6 教師の話聞く。</p>	<p>T 2：友達の意見も参考にして、これから友達ともっと仲よくしていくためにはどうすればよいか、自分の考えを自己決定カードに記入させる。</p> <p>T 1、T 2：机間指導を行い、具体的な考えを自己決定カードに記入している児童について賞賛し、実践への意欲付けを図る。また、自分の考えをうまく書けない児童には、友達にしてもらってうれしかったことなどについて書くよう助言する。</p> <p>☆自分たちは、おなかの中にいる時から大切に育てられたことに気付き、同じように大切にされている友達と仲よく生活するためにどうしたらよいか、自分のめあてを決めている。また、自他の生命の大切さ、友達と仲よく生活するために自分のめあてを考え、決めている。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・実践】</p>	自己決定カード

8 事後の指導

- 帰りの会などで、自分で決めためあてに取り組んでいるかを確認し、実践の継続ができるよう意欲付けを図る。
- 実践について学年だより等で家庭に知らせ、継続して取り組むことを依頼する。
- 家庭での児童の様子や家族で話し合ったことについて記入してもらう。
- 家庭との連携を図り、気付いたことがあれば、担任や養護教諭に連絡してもらうようにする。

9 板書計画



10 資料 (先行授業で行ったクラスの保護者より)

2年 組 保護者名 () 児童名()

お母さんのお腹にいた時からずうっと愛されていることが分かったみたいです。
 「最近、怒られては「かソ」けど、しほくのためなんだね。」と安心したようです。
 お友達も大切にしていきたいと話していました。

2年 組 保護者名 () 児童名()

自分が生まれてきて、これまで愛されてきたことをあらためて知り、自分自身の命の大切さや、家族、友達、先生と、自分の周りにはいるおバテの人も同じように大切な存在であることに気付くことが出来たようです。
 お友達との関わりについても、より大切に、仲良くしていきたいと話していました。

友だちとなかよくする方ほうを考えよう！

年 組 名前

みんな同じように家ぞくに大切にされている友だちとなかよくするためには、どんなことができるかな？

ぼくは、わたしは、友だちともっとなかよくするために

をめあてに生活していきます！

